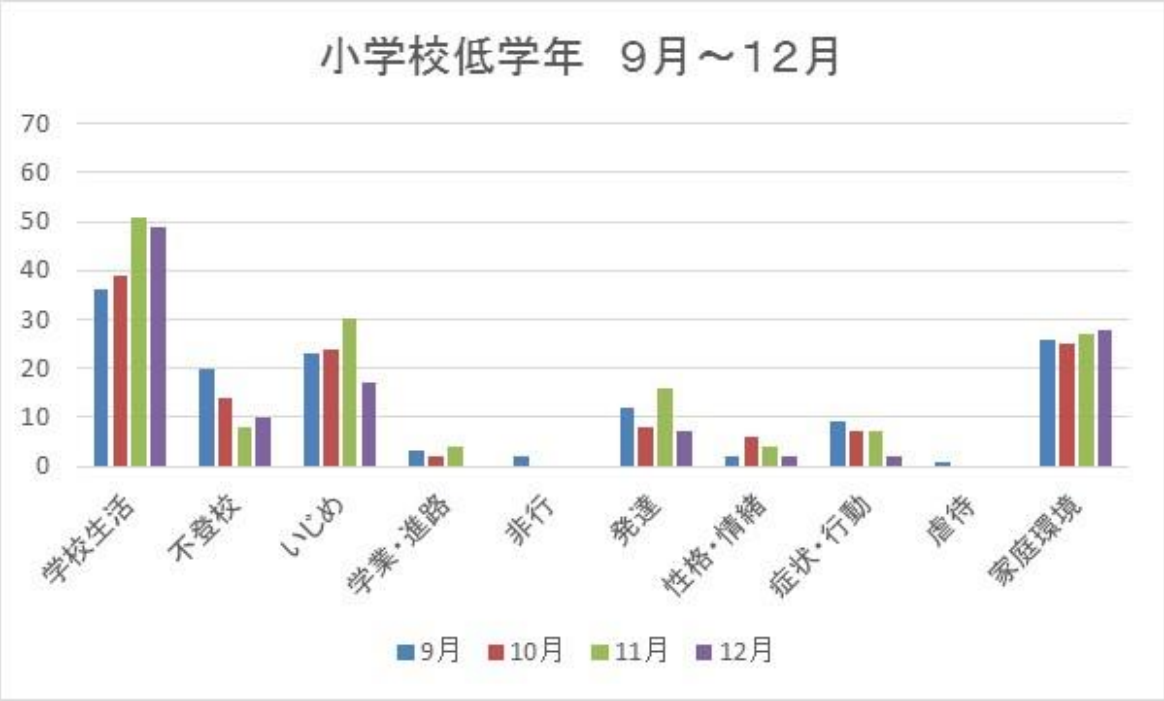
「よい子の電話教育相談」に係る
統計及び指導のポイント等

～今後の生徒指導・教育相談に活用してください～

（令和元年度、２年度、３年度　９月～１２月統計結果から）

埼玉県立総合教育センター指導相談担当

小学校低学年



統計結果から分かること

- １年間を通して、「学校生活」に関する相談が最も多い時期となっている。
- ９月、１０月、１１月と「いじめ」に関する相談の件数が増えてくる。１１月が年間を通して「いじめ」についての相談件数が最多となる。
- 「不登校」の相談は夏休み明けの９月が多い。

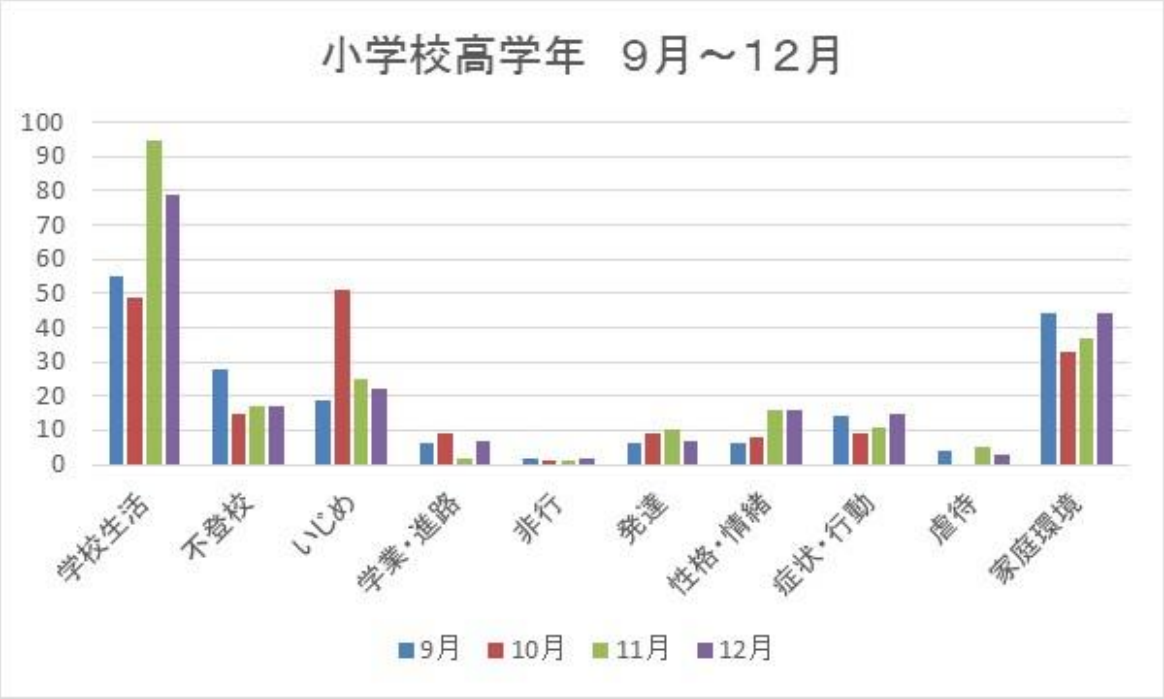
【指導のポイント】

「不登校」の相談件数が減少してくるのに伴い「学校生活」、「いじめ」の相談件数が増えてくる。児童間のトラブルが多くなる時期なので、１１月、１２月は特に児童同士の関係に注視して指導を行う。

（相談例）

「給食が苦手で学校を休みたい。朝になると登校が嫌になってしまう。」
「子どもが特定の友達とうまく関われなく、学校に行きたくないと言っている。」
「子どもがクラスで仲間外れにされている。」
「子どもが学校に行きたくないと言い出した。どう対応したらよいのか悩んでいる。」
「友達からいじめられ、担任にも相談できない。どうしたらよいか。」
「子どもが特定の子に消しゴムを隠されたり、ひっかかれたりする。どう対応したらよいのか。」

小学校高学年



統計結果から分かること

- １年間を通して、**「学校生活」**に関する相談が最も多い時期となっている。特に**１１月・１２月**が多い傾向となっている。
- **１０月に「いじめ」の相談が多く**、１年を通しても最多である。
- **「家庭環境」**の相談も高い数値で推移している。

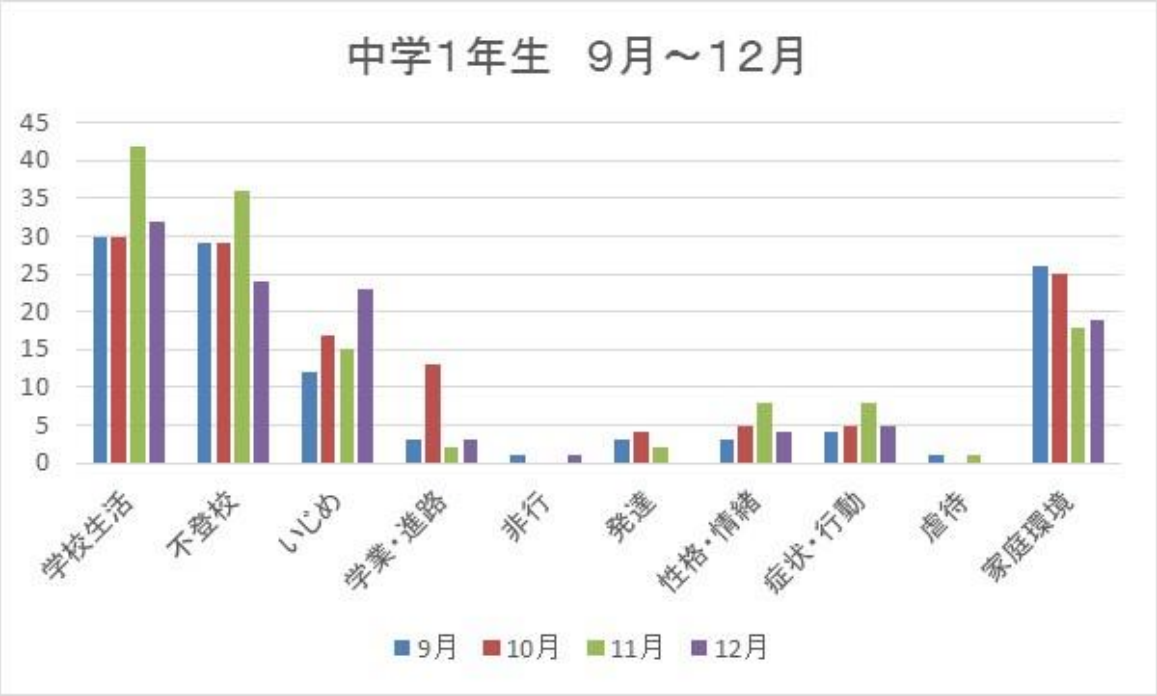
【指導のポイント】

人間関係のトラブルに関する「学校生活」「家庭環境」の相談が多くなっている。「家庭環境」の中には**親への反抗的な態度**についての相談も見られる。
学校での問題行動の背景に、**家庭環境の悩み**がある場合があるので、配慮が必要となる。

（相談例）

「親が自分の話を聞いてくれないので悲しい。」
「子どもが友達のことが原因で学校に行きたくないと言っている。どうしたらよいか。」
「夏休み明けから学校に行きにくくなり、今週から学校に行かなくなってしまった。」
「子どもが受験でイライラしていて、家庭での対応に困っている。」
「子どもが友達と遊ばない。親がアドバイスをしても受け入れてもらえない」

中学１年生



統計結果からわかること

- 「不登校」「学校生活」についての相談が多い。
- 「不登校」「学校生活」「性格・情緒」「症状・行動」の相談で、**１１月がこの期間の最多の相談件数**となっている。
- 「いじめ」の相談については、夏休み後徐々に増えていき、**１２月**が１年間で最多である。

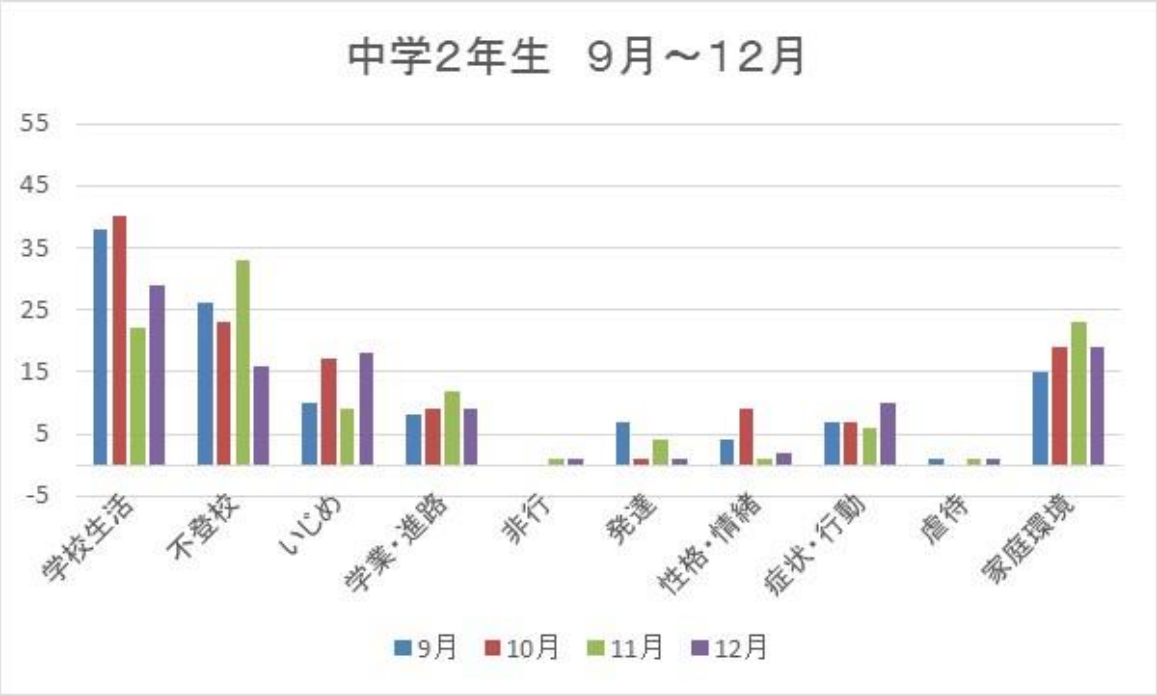
【指導のポイント】

１１月に、この時期の「学校生活」、「不登校」の相談件数が最多となることや、１２月にいじめの相談件数が１年間で最多となることから、**１１月、１２月の生徒指導**が重要となる。計画的に全体の指導を行うとともに、トラブルの元となる**生徒同士の人間関係**に重点を置いた指導を行っていく。

（相談例）

「上級生に嫌がらせをされ、怖くて学校に行けなくなった。」
「子どもがクラスメイト二人に嫌がらせをされている。どうしたらよいか。」
「子どもが１０月から、不登校気味になっている。どうしたらよいのか分からない。」
「クラスに同じ部活の子が一人もいなくて寂しい。部活を変えようと思ったが、両親から部活を変えると内申点が下がると言われた。内申点が下がると困るので部活を変えられない。どうしたらよいか。」

中学２年生



統計結果から分かること

- ４月から７月にかけては「不登校」の相談が多かったが、９月から１２月にかけては**「学校生活」**についての相談が多くなっている。
- **「不登校」**については、**１１月に**１年間での**２回目のピークを迎える**（１回目は６月）。
- **「いじめ」**についての相談は比較的少ないが、１年を通すと１０月、１２月が多い傾向にある。

【指導のポイント】

１１月に訪れる**２回目の不登校のピーク**に対し、どのように未然防止をするかということがポイントとなる。夏休み終盤や夏休み明けの声掛け、９・１０月の学校生活におけるトラブルへの丁寧な対応などにより、１１月の不登校に対する不安の減少を図っていく。

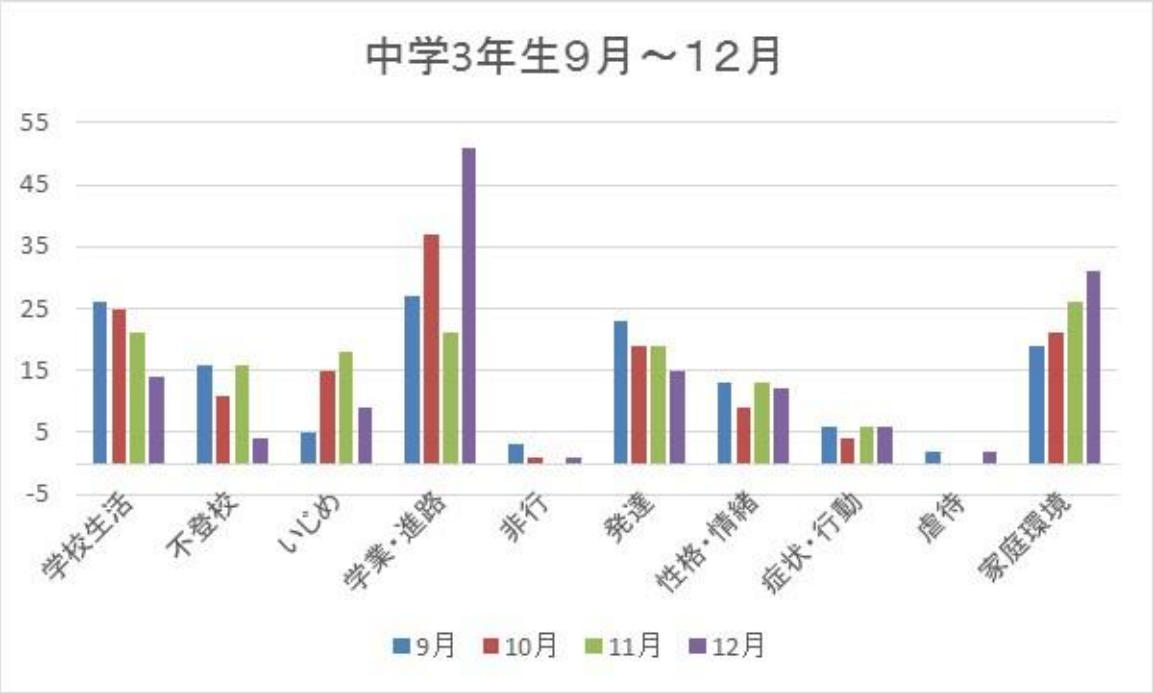
（相談例）

「子どもが不登校で家にいることが許せない。どうしたらよいか。」

「子育てについて不安である。中２になり気難しくなり、物や弟に当たったり、親へ口答えしたりすることが頻繁に起こるようになった。」

「子どもが宿泊学習で、苦手な子と同じ部屋になった。子どもはクラスの友達とうまくいっておらず、この先不登校になってしまうのではないかと不安である。」

中学３年生



統計結果から分かること

- **１２月に向けて「学業・進路」の相談**が多くなる。
- 「不登校」や「学校生活」についての相談は少なくなり、**「家庭環境」**の相談が増えてくる。
- 中２までは相談件数が少ない**「発達」「性格・情緒」**の相談が、４月から引き続きこの期間も多い。

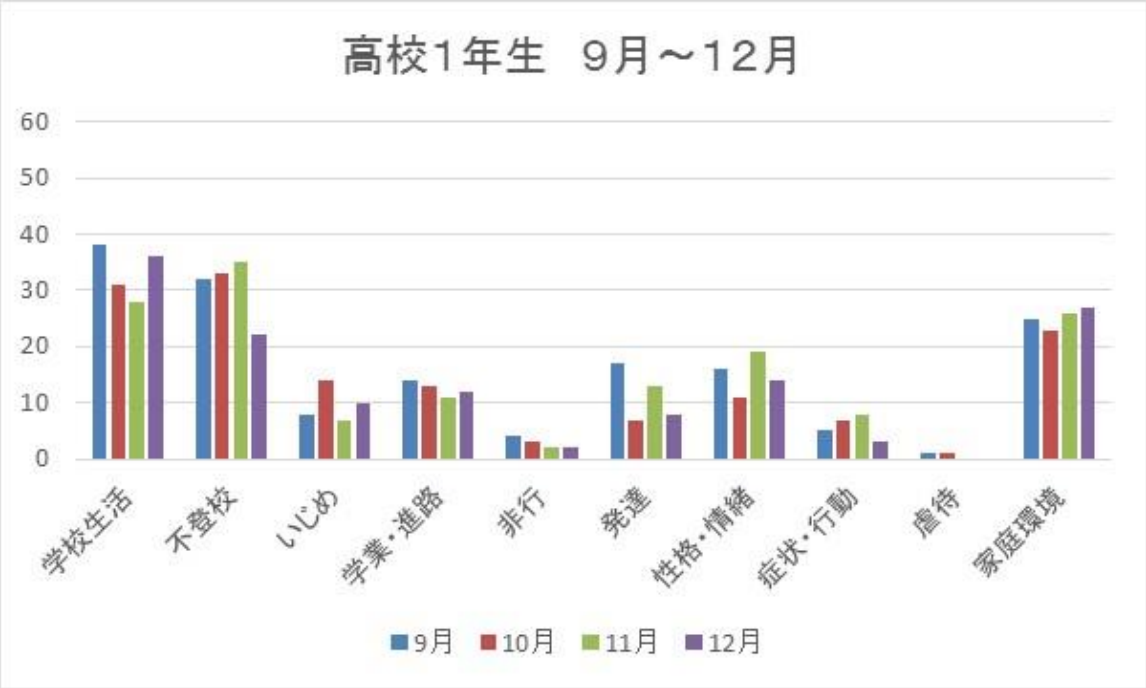
【指導のポイント】

「発達」に関する相談は、中学３年生の４月から１月までが多く、高校進学を控え、学力の遅れや人間関係でのトラブルなどの問題が、**発達障害から来ているのではないかと心配する**保護者が多い。学校での様子の伝え方によっては、保護者とのトラブルとなるケースがあるので、保護者面談等での伝え方に配慮が必要となる。

（相談例）

「子どもが不登校になって１年になる。どうしたらよいか。」
「子どもが現在不登校であるが、受験が心配である。」
「子どもは、学校で友だちがいない。どうすればクラスの仲間とコミュニケーションが図れるようになれるか。」
「不登校から別室登校ができるようになったが、未だに教室に入れないので心配である。」
「受験勉強がうまく進まず、イライラして反抗的な態度をとる子どもへの対応に困っている。」

高校１年生



統計結果から分かること

- 「不登校」、「学校生活」の相談が多いが、４月から７月までと比べると、相談件数は減少している。
- 「性格・情緒」で悩む相談が多い。
- 「学業」に関する悩みは少ない。

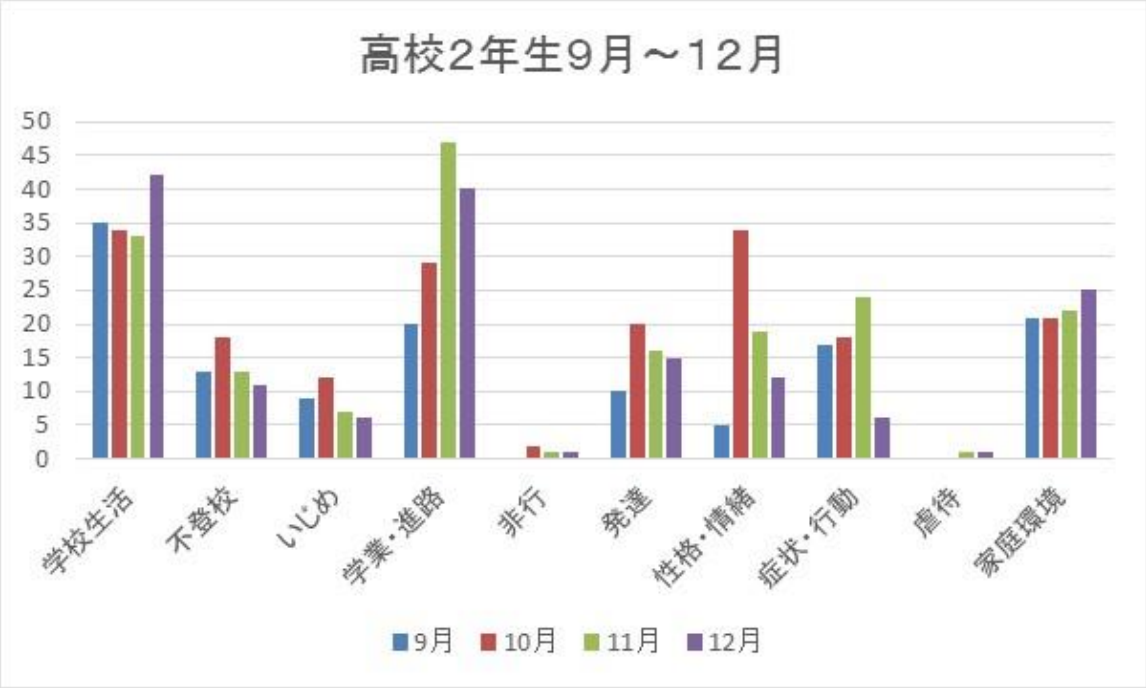
【指導のポイント】

新しい生活に慣れてくる中で、学校生活全般（学業・部活・友達関係）での疲れが出てくる時期である。また、そのような中で、**情緒が不安定**になり、深刻な相談をしてくる生徒もいる。不登校の相談は、ピークである６月に比べると減少しているが、１１月までは高い数値を維持しているため、**不登校を退学につなげない指導**を引き続き行っていく。

（相談例）

「部活動での人間関係に悩み、退部を考えている。どうしたらよいか。」
「学校の雰囲気・友人との価値観が合わず、学校生活に疲れてしまい、学校に行きたくない。転学も考えている。」
「学校生活を楽しみたいが、授業に集中できず学校を欠席してしまう。仲のよい人もいるが、どうしたらよいか。」
「友達と合わせようと努力しすぎてしまい、被害妄想に陥り、学校も辞めたい、死にたいと思ってしまう。どうしたらよいか。」
「進学校に入学したが、毎朝の小テストや勉強についていけず、学校を休みがちになってしまっている。」

高校２年生



統計結果から分かること

- 「学業・進路」の相談が多くなるのが２年生の１１月で、以後３年生の１１月まで相談の中心となる。
- 「性格・情緒」の相談は年間を通して一番多い。
- 「発達」の相談が、高校３年間の中で最も多い時期となる。

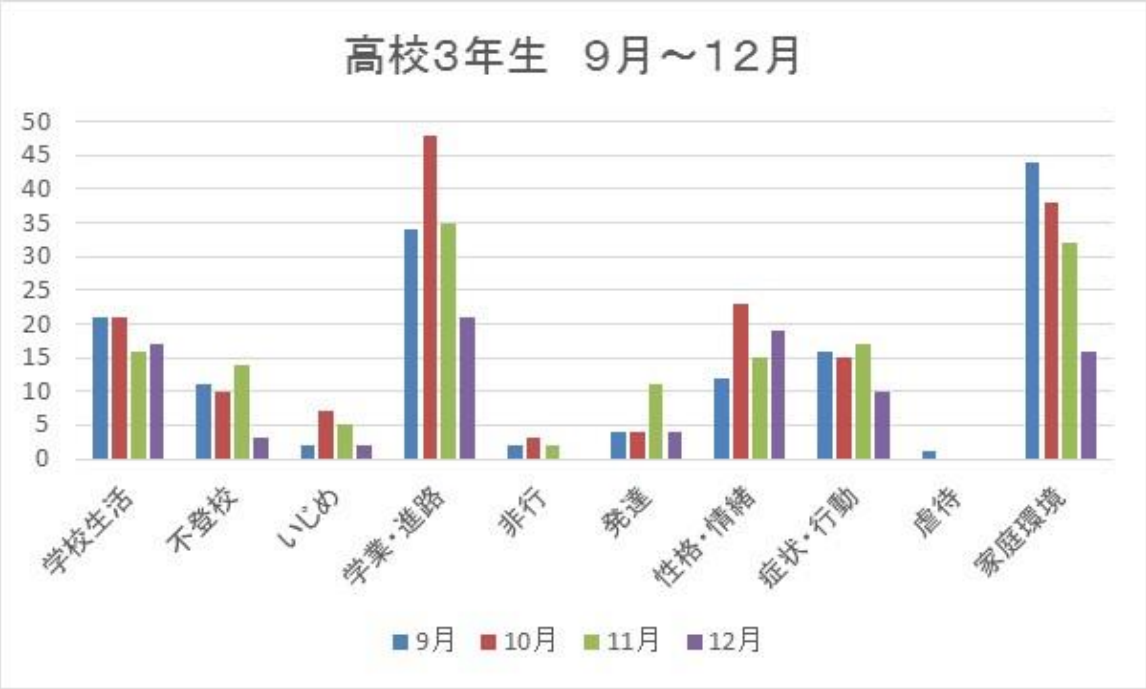
【指導のポイント】

学校生活に関することでは、友達関係の相談だけでなく部活動に関する相談が増える。また、欠席数が多くなり、進級・進学に向けて心配であるといった「学業・進路」の相談も多くなってくる。本人の思いに寄り添った進路選択を勧めるとともに、それに伴う学習面、生活面の不安や悩みについて、具体的な支援をしていくことが必要である。

（相談例）

「夜遊びが始まり、成績も下がり、子どもの進級が心配である。どうしたらよいだろうか。」
「部活動の練習中に子どもがけがをしたが、対応が不十分で不信感を持っている。」
「自傷行為をやめると心が壊れてしまうと感じ、自傷行為がやめられない。」
「進学校にいるが、成績が気になり学校に行けなくなってしまった。どうしたらよいだろうか。」
「ゲームで昼夜逆転し、不登校となり、学校を辞めたいと考えるようになってしまった。」

高校３年生



統計結果から分かること

- 「学業・進路」、「家庭環境」の相談が多くを占めているが、１２月になると減少する。
- 「家庭環境」の相談は年間を通して一番多い。
- 「性格・情緒」に関する相談も一定数で推移している。

【指導のポイント】

将来に対する不安が高まる時期であり、卒業後の進路に向けて「学業」に関する相談が増えるとともに、**親からの自立に関する相談**もあり、「家庭環境」の相談件数が多くなっている。家庭環境が不安定になることから、生徒の情緒も不安定になることがあるため、**メンタル面でのケア**が必要となる。

（相談例）

- 「子どもに対する親の依存が強く、この状態が正しいのか悩んでいる。親とのよりよい関係の築き方がわからない。」
- 「小学校から家事をしているが、母親からは文句を言われ心が疲れてしまった。自分を改善し受け止めたい。」
- 「勉強をやる気になれず。学校も休みがちである。受験も不安だが、親に何と相談したらよいのかわからない。」
- 「以前までは目標があり、気力もあったが、学校を休みがちになってしまい、将来への不安がつのる。」
- 「就職先が決まらず不安である。」